

彼女にできるのなら、あなたにもできる！～香港の女性リーダー、クレールの物語

アメリア・ロー（香港）

「人生、それは選択と犠牲です。辛い時こそ自分がいかに恵まれているかを思い出します。そしてベストを尽くすのです。」クレール・クー

ワーク・ライフ・バランスが、香港の働く女性の間で大きな課題となっています。香港の中でも多くの働く女性が、仕事を持つ母親に対する要求があまりにも大きすぎると感じています。また、出生率の低下の大きな原因として、こうした問題があるのかもしれません。非管理職レベルでは、労働市場に参加した女性の半分以上が、母親であることと仕事の両立が難しいために、退職してしまうのですが、これは非常に残念な話です。

クレール・クーは、キャリアウーマンとしての成功を収めながらも、愛される母親になるにはどうすべきか、そのお手本を示してくれるまぶしい存在です。スタンフォードやオックスフォードといったエリート大学を卒業した彼女は、これまでも、香港金融国庫局副長官、麻薬担当コミッショナー、住宅担当副理事など、香港政府で数々の要職を務めてきました。政府内での顕著な活躍が評価され表彰を受けたこともあり、シンガポール内務省から功績賞を授与された数少ない香港政府職員の一人です。

2001年から2002年、クレールは、金融アクション・タスク・フォースの代表に選出されました。これは、マネーロンダリングやテロリスト問題に対応するため、グローバルに主導的役割を果たす政府間機関です。2007年には、前香港特別行政区行政長官である董建華氏のサポートにつきました。前長官は、中米交流基金の設立を目指し、初代CEOに就任しました。2011年、クレールは香港の主要銀行のエグゼクティブディレクターに就任し、現在では、民間会社のマネージングディレクターを務めています。



前香港行政長官（中）とクレール・クー（右）

クレールの偉業のなかでも最も印象的なのが、9.11のテロ攻撃直後の渡米です。この時、彼女は、テロ資金供与の阻止・防止をめざし、新たなルールを協力して制定するために、世界のリーダーをまとめる働きをしました。当時はまだ子どもたちが小さく、幼い子どもたちがいるのに家を空けてばかりいる彼女に、反感の声があがることも懸念されましたが、彼女は平静を装って飛行機に乗り、9.11のテロ攻撃からひと月も経たないワシントンD.C.へと向かいました。9.11後の「テロ資金供与に関する8つの特別勧告」の制定に向けて、彼女はタスクフォースを取り仕切りました。世界が危機に見舞われている最中の彼女の傑出した効果的なリーダーシップは、アメリカのオニール財務長官やアシュクロフト司法長官、さら

に、イギリスのゴードン・ブラウン首相など、各国の高官から公然と賞賛されました。

当時を思い出しながら、クレールはこう語ります。「私のことを、世界を救ったヒロインと呼ぶ人もいます。また、仕事を同僚に簡単にまかせることもできたのに、自分の命を危険にさらすだなんて馬鹿げている、という人もいます。多くの働く母親と同様に、私だって、母親としての罪悪感を覚えました。数々のミーティングをこなすために海外に行ったがために、私の子どもたちの人生におけるたくさんの重要な機会に立ち会えなかったんですから。けれども、それもリーダーの責任の一部なんです。そしてリーダーとは、不安定な時こそ強くなければならないし、恐怖や不安に屈伏してはならないのです。」

母親であることに関しては、量より質を重視し、子どもたちが「自分は愛されて大切にされている」と感じるように、限られた時間の中でベストを尽くす、とクレールは言います。彼女は子どもたちにきちんと気を配り、責任感、献身、勤勉といった基本的な価値観を育み、また、一緒にボランティア活動することで、社会で恵まれない人びとを支援することの意義を子どもたちに伝えようとしています。

母親であることと、女性リーダーであることの両立が簡単に行くことなどまずない、とクレールは認めます。時間は貴重であり、上手な時間管理がカギを握ります。ただし、時間管理が上手であっても、やはり優先順位をつけて何かを犠牲にするのは避けられません。人びとがより良い生活を送るための支援をすることは、人としてしなければならないことだと彼女は感じています。だからこそ、忙しいスケジュールにも関わらず、クレールは国の内外で人びとを助けるための時間を作るのです。彼女は、香港基本法運営委員会、さらに金融紛争解決評議会上訴委員会のメンバーであり、また、米中関係、薬物、若者、女性問題に関する複数の NGO の委員も務めています。

新米の働くお母さん、もしくは、将来、子どもができて働こうと思っている女性の皆さん、自分自身を信じましょう！彼女にできるのなら、あなたにもできる！

『『どうしてそんなに働くの？』と子どもたちに聞かれ、私は答えました。『一生懸命働いて決めたからよ。あなたたち家族を愛している。仕事も愛している。あなたたちも仕事も、どちらも、私の一番なのよ』』クレール・クー